
Lasting memory.

太@眼鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Lasting
memory.

【N
コ
ー
ド】

N
3
3
5
0
P

【作者名】

太@眼鏡

【あらすじ】

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

あの日、あの時間。僕の全てはそこに集約される。

一瞬の接触と一瞬のトリップ。融けるようにして一つになった僕達。

柔らかい君の唇が触れたのは僕の唇で、君の震える肩に添えた手は僕のもので。

それは――。

いつの間にか、目の前に君がいた。

瞬間、これは夢だと気付く。何度も、何度も繰り返し見てきた夢。手を伸ばせば届きそうなほど近くて、それでも果てしなく遠い君との距離。間違はなく僕の眼前に君は存在しているのに、薄い光にぼかされた君の輪郭はすぐにでも消えてしまいそうだった。

夢の中の僕は、青、黄、赤、黒――様々な色のいくつもの扉を抜け、懐かしい風が吹く高台で君と見つめ合う。凜とした空気を湛えるその姿は、記憶に閉じ込めたあの頃のままの君そのものだった。

日常の片隅で探し求めた君がすぐ傍にいるというのに、動くことをしない体と幾重にも君の幻を見せてきた瞳。唇が熱い。あの日の感触が蘇ってくる。

ようやく動いた手がゆっくりと君の肩に触れ、柔らかな熱を僕へと伝えた。君の睫が可愛らしく震えていて、そうでなくてもそれは変わらないのだろうけど、愛おしくて堪らない気持ちになる。

近づく唇。閉じていく瞼。そして――。

そして、君は消えてしまう。

——たった一度のキス。

三秒にも満たない短い時間、僕と君の唇は重なった。

お互いが初めての行為。初々しく照れた君の表情に、僕の意識は舞い上がる高度を下げない。君の震える肩からゆっくりと離れた僕の手を君は慌てて握りしめた。

その仕草がとても可愛くて仕方がなかった。

「時間が止まればいいのに」

ゆるりとした空気の中、先にそう口にしたのはどちらだったか。お互いの気持ちが進き出す最大公約数のような考えに希望はなく、確かな悪意を尖らせた時間は迫り来る終わりを垣間見せた。

時間が止まらなかったあの日。それは当たり前のこと。そうして離れた二人。そうすることを望まなかった僕。仕方がなかった君。

どうしようもなかったのかもしれない。消えゆく命の躍動を動かす術を僕は知らなかったのだから。

それでも、あの日以来、僕の世界は一変したんだ。それは今もずっと変わらない。見慣れた景色に色が生まれ、淡々と進む秒針にリズムを覚え、踏みしめた大地には躍動を感じるようになった。

君はどこにいるのだろう。想いの丈は、今もずっと君を捉えたまま。

あの日の君は、僕の記憶の中で確かに生きています。
今なら言えるよ。

僕の気持ちを言葉にして、君に——好きです——と。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3350p/>

Lasting memory.

2010年12月6日04時22分発行